

7

用語の解説

あ

NS形（えぬえすがた）

管路の継手の種類の一つ。継手部に伸縮性、可とう性、離脱防止機構が備わっており、優れた耐震性をもつ。施工性も容易

か

活性炭（かつせいたん）

水道原水に存在するカビ臭や異臭味の原因となる物質や油脂類を吸着除去できる粉末や粒状の炭

合併浄化槽（がっぺいじょうかそう）

トイレの汚水と台所、風呂などの生活雑排水も一緒に処理する浄化槽

簡易水道（かんいすいどう）

水道法にも定められた区分で、飲用水を供給する水道のうち、給水人口が 100 人を超え、5,000 人以下の水道をいう。

管路（かんろ）

導水管（原水を取水口から浄水場に送る管）や、送水管（浄水場で処理した水道水を配水場に送る管）、配水管（配水場から家庭や工場などに水道水を送る管）など、お客様に水道水を届ける過程で使用する水道管の総称

基幹施設（きかんしせつ）

取水施設、貯水施設、導水施設、浄水施設、送水施設、配水本管及びこれに接続する配水池など

企業債（きぎょうさい）

公営企業が発行する債券、国が直接引き受ける場合のほか、地方公共団体金融機構などが引き受けることもある。

給水量（きゅうすいりょう）

給水区域に対して給水した水量

減価償却費（げんかしょうきゃくひ）

ポンプ場、配水管など新たに取得した固定資産の取得価格を耐用年数で割って、費用配分する手続

減債積立金（げんさいつみたてきん）

黒字決算のときに、企業債の償還に充てるため積み立てることができる積立金。資本的収支の補填財源となる。

更新（こうしん）

改築、取り替えなどの方法により、従来あった施設・設備等を新しいものに作り替えたり、取り替えたりすること。

GX形（じーえっくすがた）

管路の継手の種類の一つ。NS形と同様に優れた耐震性をもつが、耐久性、施工性がより向上している。

新発田市水道事業審議会（しばたしすいどうじぎょうしんぎかい）

新発田市水道事業審議会条例に基づき設置している諮問機関。

新発田市水道水源保護条例（しばたしすいどうすいげんほごじょうれい）

水道水源である加治川の水源を保護するため、平成17年4月に施行された。更に平成21年4月1日から、水道水源保護地域（加治川第一頭首工上流部で頭首工に流入する行政区域内の流域すべて）が指定された。

資本的収支（しほんてきしゅうし）

施設の整備や企業債の償還元金等の収支。企業債収入等も資本的収支に含まれる。

収益的収支（しゅうえきてきしゅうし）

地方公営企業の経常的営業活動により年度内に発生が見込まれるすべての収益とそれに伴う全ての費用。減価償却費もこれに含まれる。

常時監視装置（じょうじかんしそうち）

安全な水道水供給のため、残留塩素、濁度、色度、pH、導電率、水温、水圧などを24時間連続監視する装置

水管橋（すいかんきょう）

水道が川や谷と交わるとき、対岸側まで水を運ぶために架けられる橋

水道事業広域化（すいどうじぎょうこういきか）

これまでの水道事業の枠を超えて、統合、協同、委託などの方法で、広域的に水道事業を展開すること。

水道未普及地域（すいどうみふきゅうちいき）

上水道や簡易水道が、まだ布設されていない地域

石綿管（せきめんかん）

角閃石（かくせんせき）や蛇紋岩（じゃもんがん）の繊維が集合した素材で作られた管路。戦後は多くの水道管に石綿管が使われていましたが、石綿の吸入による発がん性や老朽化による管路の劣化が問題となり、日本では1985年から水道管への新設使用が禁止されている。

総収支比率（そうしゅうしひりつ）

事業の総収益を総費用で割り、100を乗じた数値

損益勘定留保資金（そんえきかんじょうりゅうほしきん）

企業会計で用いる概念。減価償却費、除却費など、計上はするが、現金支出を必要としない経費の総称。資金収支上は内部で留保されており、資本的収支の補填財源となる。

た

耐震化 (たいしんか)

地震災害発生時においても一定の給水を確保するために、水道施設、管路の構造面での耐震性を備えること。

耐震診断 (たいしんしんだん)

水道施設や管路を対象に耐震性能を有するか判定すること。過去の地震被害事例や類似施設の耐震診断結果などから定性的に耐震性能を把握する簡易診断と、簡易診断の結果を踏まえて、既存施設の耐震補強の要否やバックアップ機能の検討などを行う詳細診断がある。

耐用年数 (たいようねんすう)

地方公営企業法施行規則で固定資産の種類等によって定められている使用に耐えられる年数

ダクタイル鋳鉄管 (だくたいるちゅうてつかん)

鋳鉄組織の黒鉛の形状を片状から球状に変えた素材で作られた管。強度と靱性の面で優れている。

鋳鉄管 (ちゅうてつかん)

鉄、炭素、ケイ素からなる鉄合金。現在は、ダクタイル鋳鉄管が主流になっている。

DBO (でいーびーおー)

公共が資金を調達し、設計・建設、運営を民間に委託する方式のこと。

な

新潟東港地域水道用水供給企業団 (にいがたひがしこうちいきすいどうようすいきょうきゅうきぎょうだん)

新潟東港への進出企業や東港隣接市町村の人口増加に対応するため、昭和 48 年に設立された。現在は、新潟市、新発田市、聖籠町の 2 市 1 町のほか、明和工業株式会社（新潟東港の立地企業や船舶に給水を行う簡易水道事業者）に給水している。

は

配水池 (はいすいち)

使用水量の時間変動に対応し、需要量に応じて水道水を供給するため、一時的に浄水を貯めるための貯水槽

PFI (ぴーえふあい)

Private Finance Initiative (プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法

普及率 (ふきゅうりつ)

現在の給水人口と行政区域内人口の割合

ポリエチレン管（ぼりえちれんかん）

プラスチック管の一種。軽量で耐寒性、耐衝撃性を有している。

ま

マニュアル（まにゅある）

初心者でも、一定の操作や行動ができるように文書に記載した手引書

ら

料金体系（りょうきんたいけい）

需要者から徴収する水道料金の算定の基礎となる単価の体系



新発田市水道局

〒957-0026 新潟県新発田市下内竹 747
電話番号：0254-20-0141（代）